

令和7年度 学校評価表（後期）

大崎上島町立大崎上島中学校

教育目標	学校教育目標	心豊かで、たくましく、主体的に学び、地域に貢献できる生徒の育成	経営理念	【ミッション】	【ビジョン】 《めざす学校像》 ○安心、安全な学校 ○教職員が協働し、主体性と創意工夫を大切にする学校 ○地域に開かれ、保護者、地域と相互に支え合い、誇れる学校	《めざす生徒像》 ○自らの夢や目標に向かって主体的に学び行動できる生徒 ○自分に自信と誇りを持ち、仲間への思いやりと優しさを持つことができる生徒 ○故郷に誇りを持ち、地域の文化と人を大切にする生徒
	研究テーマ			生徒が主体的に学ぶ授業の創造 ～「大崎上島中授業モデル」による学習活動を通して～		

領域	評価計画			自己評価				学校関係者評価		取組の成果と今後の改善方策		
	中期経営目標	短期経営目標 (子役の変)	担当	目標達成のための方策	評価項目	達成率	達成度	評価	結果と課題の分析		コメント	
主体的・対話的で深い学びの質の向上	確かな学力	改善の視点を明確にした研究授業	研究	「主体的・対話的で深い学び」を焦点化した校内授業研究を実施する。(年5回以上) ・課題に対して、自分の考えを持ち、学び合いながら、課題解決に取り組み、考えを深める授業改善を行う。	全国学力・学習状況調査では、全国、県平均5ポイント上回る。標準学力調査では、各学年、全国平均より各教科平均5ポイント上回る。質問紙「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」肯定的評価の割合(80%)	80%			A	4月実施の全国学力・学習状況調査では、全国平均と比較して国語+5.7ポイント、数学+9.7、理科+11.7とすべての教科で上回り、目標を達成した。また、全国学力・学習状況調査質問紙では、生徒の肯定的評価は82.2% (全国平均77.7%)で、全国平均と比較して+4.5であった。多くの生徒が自ら課題を見つけ、主体的に解決に向けて取り組んでいると考える。 12月に実施した標準学力調査では、1年生では社会・英語が全国値より上回ったが、その他の教科は下回った。2年生では社会以外の教科が全国値を下回っているが、英語の思考・判断・表現力は上回った。3年生は、全ての教科で全国値を上回った。全国値と比較して5ポイント以上上回っているのは、3年生の国語・社会・理科である。中でも1・2年数学、2年理科の思考力・判断力・表現力、英語の知識・技能に課題が見られた。	・毎年いい結果を出していると思います。教職員の努力に敬意を表します。 ・「どうすれば学習時間を増やすことができるのか。」は、なかなか進まないです。高校も同じです。 ・ICT機器を使い慣れた生徒が今後さらに増えていくことは大きな利点です。操作に抵抗がなくなることで、学習活動の中でより効果的な活用が可能になると思います。活発な意見交流を促すツールとして、ICTを積極的に活用するとともに、ICTを使うことで互いの考えを可視化、共有し、考えを深め合うための有効な手段として大いに役立てていくことができます。	公開研究会後も「生徒が主体的に学び、深め合う授業の創造」に向けて、身に付けさせたい資質・能力の見直しを行い、教育研究を推進している。また、3学期には、教員同士で授業参観を行うなど継続して、授業改善に向けた取組を行い、指導力向上を図っている。全国学力・学習状況調査では、各教科での学習内容の定着を図る取組や各教科や学年を中心に全教職員で取り組んだ成果が表れたと考える。今後は、標準学力調査の結果を各教科で分析し、「本質的な問い」を基にした授業づくりを継続していくとともに、家庭学習や「基礎・基本タイム」等を通して、各学年の学習内容の定着を図っていく。
				個人思考、グループ、全体交流について意図的に仕組み、自分の考えを相手に分かりやすく伝わるように発表させる。	生徒アンケート「授業では自分の考えを持ち、相手に分かりやすく伝わるように発表しています。」の肯定的評価の割合	80%	81%	101%	A	生徒アンケートでは、肯定的評価の割合が前期82%、後期81%であった。学年別では、1年76%(前期-7)、2年83%(+3)、3年86%(+6)が肯定的回答をしており、2・3年生で肯定的回答の割合が増加している。一方で、1年生は前期よりも肯定的回答をした生徒が減少している。	・2・3年生の肯定的な回答が前期と比べ増加しているのは、各教科担当者が相手意識を持って、自分の考えを他者に伝える、表現する場を効果的に設定したことや、広島県公立高校入試を見据えた「自己表現」の取組に向けた取組を行い、今後は、授業の中で、自分の考えを相手意識を持って表現することの指導を行っていく。また、肯定的な評価を取り入れるとともに、学級活動や生徒会行事の中でも自分の考えを表現する場面を意図的に設定する。生徒指導部や学年部と連携し、安心して発言・発表できる学級づくりをしていく。	
				・家庭学習の習慣化に向けて「学び方マニュアル」の周知徹底を図る。 ・個別学習の充実を図る。 ・授業規律の徹底を図る。	生徒、保護者アンケートによる家庭学習時間(1年:70分 2年:80分3年:90分)を上回る割合	80%	生60% 保40% 50%	生75% 保50% 62.5%	生C 保D	生徒アンケートでは、肯定的評価の割合が前期と比較して11ポイント増加した。1年52%(前期-10)、2年50%(+10)、3年76%(+34)が達成できていると回答している。どの学年も目標値には達成していないが、2・3年生で家庭学習時間が増加している。一方、1年生は前期に比べ、肯定的回答をした生徒が減少している。保護者の肯定的評価の割合は、1年33%(前期+1)、2年35%(-8)、3年52%(+22)であり、1・3年生は前期よりも数値が上昇している。しかし、目標値は満たしておらず、家庭学習が定着していないことが分かる。	・家庭学習の定着には、明確な目標設定、内容の具体化、ICTの活用、成果の可視化、家庭との連携が重要だと思います。特に重要なのは、「継続できる仕組み」を作ることであり、無理のない形で成功体験を積み重ねることが、家庭学習の定着につながるのではないかと思います。	3年生の数値が前期よりも22ポイント上昇しているのは、進路の実現に向けて家庭学習の必要性を感じているからであると考えられる。今後は、3年生だけでなく、1・2年生も、学力の定着を目指して、自立した学習者として自らの学習を調整しながら家庭学習を行うように意識付けを行う必要がある。また、授業内容を定着させるための予習・復習や、学習の方法について、学年教員や各教科担当で指導していく。学校全体で、宿題の量や内容等について検討し、保護者の協力を得ながら、家庭学習習慣の確立を目指す。
				・定期的な研修を実施する。(毎月1回) ・毎月1回以上ICTを活用した授業を行う。 ・学期に1回オンライン授業を行う。	・定期的な確認及び生徒・教職員・保護者アンケートの肯定的評価の割合	70%	生98% 保90% 90%	生140% 保136% 教139% 138%	A	生徒アンケートでは、肯定的評価の割合が前期と比較して4ポイント増加した。1年96%(前期-4)、2年100%(+11)、3年97%(+5)が肯定的な回答をしており、目標を達成した。各教科担当者を中心に、ICTを効果的に活用した授業づくりを行っている成果と言える。校内授業研究や学びの革新推進協議会等では、全ての授業でICT(ロイノット)の効果的な活用について、協議を行ってきた。また、前期の取組に加え、多くの教員が校内外の授業を参観し、効果的な活用について研修したことが実践にもつながっている。さらに、後期には英語科によるAIタイムの実施やオンラインでの国際交流等にも取り組んだ。	授業研究では、本務者が一人一回授業研究を行い、授業の中でロイノットの効果的な活用について、検討を重ねたり、ICTを活用した授業を参観したりしたことが、教員の授業実践に繋がったと考える。今後は、引き続き一人一台端末を効果的に活用し、ICTを又層的に使う土壌をつくっていく。生徒の思考の深まりに効果的なICTの活用を行えるよう各授業で実践を重ねるとともに、ICT支援員と連携し、他校の取組や効果的な活用方法や新たな機能の紹介等を行っていく。	
豊かな心と高い志を育む	豊かな心	自己有用感の向上	生徒指導	学校生活、行事、体験活動、生徒会活動等を行う中で、肯定的評価を常に入れる。	生徒アンケートによる「私の良さは周りから認められている」の肯定的評価の割合	80%	81%	101%	A	生徒アンケートでは、1年76%、2年79%(昨年最終-3)、3年86%(+26)、全体では81%(±0)が「自分の良さが周りから認められている」と回答している。3年の肯定的評価は前期よりも減っているが、比較的高く、引き続き良好な関係が築けていると考えられる。2年生は、あだ名やいじりが減ってきているという声もあり、今後とも注意を呼びかけていく。1年生は前期よりも肯定的評価の割合が減っているが、HRなどで関わり方について繰り返し指導し、生徒同士の関わり方の意識を高めている。十分とは言えないが、前期に続き、全体的には概ね良好な結果となっている。	・「豊かな心」の項目も含め、生徒自らが自分自身を肯定的に認められるようになっていること、具体的な行動指針が明らかなものについては100%という数値も見られることは、大変喜ばしいと思います。私達外部の大人に対しても気持ちのよい笑顔や屈託のない会話を返せることが、そうした自信の表れではないかと思えます。3年生については、卒業後も今の力をさらに伸ばし、自分の世界を大きく広げてほしいと期待します。 ・トラブルや生徒指導上の課題が生じた際には、まず事実関係を正確に整理することが重要だと思います。その上で、保護者に対して丁寧に説明し、理解と協力を得ながら対応を進めていくことが大事だと思います。一方的な判断ではなく、双方がある程度納得できる状態を目指し、校内において解決を行い下校させることを小学校では意識しています。職員間で情報を適切に共有し、対応方針を統一することで、生徒が安心して登校し、落ち着いた学校生活を送ることにつながるのではないかと思います。	引き続き、担任や学年を中心に日々の肯定的な声掛けや面談、デイリーライブを活用したりやりとり、道徳・生活の工夫、各行事の盛り上げなどを通して、生徒の自己肯定感を高め継続していく。あわせて、生徒の気になる言動については、その場で丁寧に指導し、集団の中で必要な発言、行動の仕方を意識できるように働き掛けている。また、生徒の小さな変化を見逃さず、教職員間で共有しながら、一人一人に寄り添った支援を行う。授業や部活動においても、結果だけでなく、プロセスを積極的に認める姿勢を教員が率先して示し、生徒が「自分はできる」「成長している」と実感できる環境づくりに努めている。
				社会で通用する生活態度の育成	生徒・教職員・保護者アンケートによる肯定的評価の割合	90%	生92% 教88% 保84%	生102% 教97% 保93%	A	生徒の肯定的評価は「返事89%」、「挨拶89%」、「時刻90%」、「聴く98%」、「ありがとう98%」、「靴揃え92%」となっており、どの項目も比較的高く、生徒は意識できていると感じている。一方、教職員から見た肯定的評価は、「返事62%」、「挨拶84%」、「時刻100%」、「聴く84%」、「ありがとう100%」、「靴揃え100%」であり、生徒同様に「返事」「挨拶」に課題があると捉えている。保護者の学校の生活4項目指導に対する肯定的評価は84%であり、理解を得られていると考えられる。	これまで取り組んできた「時刻」での黙想や「靴揃え」の委員会点検は継続しつつ、各学級・教科・HRで生徒の良い姿を積極的に評価し、望ましい行動への意識を高めていく。「返事」や「挨拶」については、生徒自身はできていると感じている割合が多いが、教職員の評価は十分ではない。引き続き必要に応じてやり直しを徹底し、定着を図る。また、「挨拶」は意識できている生徒もいるが、全体としてはまだ改善の余地がある。まずは、気持ちよく挨拶ができることから取り組み、来年度どこまで生徒に指導するのかを教職員が具体的に示していくことが求められる。	
健やかな体	食育力の向上と進歩	運動能力の向上	体育科	体カテストにおける学校全体の課題克服に向けて授業、部活動等で取組を徹底する。	新体カテスト、AB評価の割合	70%	45%	64%	C	昨年度とほぼ同じ結果となっている。男女ともに持久力やスピード、握力で県、全国の平均値を下回る学年が多く、課題となっている。個々で見れば、2・3年生は昨年度と比べて体力が上がっている生徒がほとんどであるが、平均と比較すると体力に課題があるのは明らかである。	基礎体力向上に向けて、年間を通してサーキットトレーニングや単元につながる体づくり運動を体育で実施した。生徒は積極的に活動していた。上島駅伝参加を通して、各部活動における体力づくり活動や生徒が意欲的に取り組める活動を継続的に行っていき、多くの生徒が部活動に所属しているため、重点項目を設定しているため、体力テストを見据え継続的に実施していく。また、新入生にも運動や運動部活動所属の意義を伝え、運動意欲を高めていく。	
				各種大会等に積極的に参加するとともに、生徒が自分たちで考え、意欲的に活動できるようにする。	生徒・教職員・保護者アンケート「部活動に積極的に参加している」肯定的評価の割合	90%	生94% 教93% 保89%	生104% 教103% 保98%	B	・運動に関する課題は個人差もあることから、個人を大事に取り組んでもらいたいです。部活動に関しては、継続して取り組んでもらいたいです。 ・スマホにゲームでは、なかなか体力向上はできないと思っています。 ・「不自由なく安心して食べられることのありがたさ」を理解できるように、生徒に指導してもらいたいです。	外部で活動している生徒もいるが、部員や顧問の声掛けによって多くの生徒が部活動にも所属し活動している。地域移住して流れてはいるが、地域の実態を考えると、部活動で生徒を育てていくことが重要だと考える。生徒が主体となって部活動を盛り上げ、新入生が部活動に魅力を感じ、3年間を通して意欲的に部活動に参加できるようにしていきたい。	
信頼される学校	保護者・地域との連携	食育の推進	健康安全	給食指導を通して、マナー及び完食をめざした食育の指導を徹底する。	週3日以上完食した生徒の割合	85%	91%	107%	A	週3日以上完食した生徒の割合は、全体の91%であり目標値より+6ポイントであった。生徒会保健委員会による働きかけも効果的であった。全体的には目標値を上回る結果となったが、好き嫌いや偏食傾向の生徒がいることから、個々の課題への取組が必要と考えられる。	食育推進の一環として、毎年、生徒委員会を中心に残食調べに取り組んでいる。各学年の実態を把握し、食と健康の重要性等について生徒中心に発信することで、生徒自身が食の大切さを感じるきっかけになっている。また、学年担任等が連携を図り給食指導に努め、課題のある生徒に対して肯定的な声掛けを行うことで、好き嫌いや偏食傾向のある生徒の食べる量や種類は、少しずつ増えてきている。今後は学校全体で生徒の実態に応じて食育の推進に努めていきたい。	
				・定期的な種々の配付物やHPの更新を図ることで学校の様子を伝える。 ・家庭連絡、家庭訪問を積極的に行い、信頼関係の構築をより図る。	保護者アンケートによる「学校の様子がよくわかる」の肯定評価の割合	90%	89%	98%	B	学年別の肯定的評価の割合は、1学年93%(前期±0)、2学年88%(-8)、3学年86%(-4)であり、前期と比較すると全体で-4ポイントとなった。後期も1回の「学校だよりの他、学級通信やスクールカウンセラーだよりの、スクリーンショットカードより、SSR通信、保健室だよりの、図書室だよりの等情報発信を行った。また、HPにおいて「ブログ」の更新を毎週木曜日に行い、学校の様子を保護者や地域の方々へ写真とともに伝えていく。	・ICT支援員の先生の活用方法は、大変参考になりました。特に、ブログのような形式を活用することで、保護者に、に向けた情報発信をよりタイムリーに行うことの重要性を改めて感じました。自分自信、今後は、保護者からの感想や意見も寄せたいという工夫をしていきたいと思っています。保護者が「返信したい」「参加したい」と思えるような内容や発信方法を意識し、双方のやり取りが生まれる取組を進めていきたいと思いました。	前期よりも肯定的評価の割合が減少した要因として、学級通信の発行頻度が減少したことや、配付物が保護者へ届いていないことが考えられる。また、依然として、各種通信の発行に係る担当者や業務過多も課題として挙げられる。今後は通信等に限らず、日頃からの積極的な家庭連絡を通して、信頼関係をより一層図っていくことが大切である。また、配付物はSigfyで発行することで、保護者が確実に閲覧できるようにするとともに、印刷業務の負担を減らしていく。成果として、教育情報化コーディネーターと連携し、定期的なHP(ブログ)の更新を続けることができている。今後も、「ブログ」の定期的な更新を継続し、写真とともにリアルタイムで情報を伝える工夫をしていきたい。
業務改善	生徒と向き合う勤務の削減	地域等との協働	学年	・地域との連携等を意図的、計画的に行い、総合的な学習の時間等の充実を図る。 ・総合的な学習を通して付けた力を明らかにし、指導と評価の一体化を図る。	生徒アンケートによる「やりたい自分(目指す姿)に近づいている」の肯定的評価の割合	80%	93%	116%	A	【1学年】1学年生徒の肯定的評価の割合は100%(29名中29名)であり、前期(9月実施)の97%より肯定的評価の割合が増え、全ての生徒が「やりたい自分に近づいている」と感じていることが分かる。「SDGsプロジェクト」では、地域企業や行政、学校関係者等と連携しながら、大崎上島町が抱える課題を解決するために自分たちができることを考え、グループで探究学習を行った。 【2学年】2学年生徒の肯定的評価の割合は87.5%(24名中21名)であり、前期(9月実施)の83%より肯定的評価の割合が増え、ほとんどの生徒が「やりたい自分に近づいている」と感じていることが分かる。後期は、商人体験(修学旅行1日目に実施)に係る学習に取り組み、学習のまとめとして、レポートの作成や青海祭での発表等を行ってきた。授業に継続して参加できていない生徒や自信のない生徒の評価が低く、個別の手立てが課題である。 【3学年】3学年生徒の肯定的評価の割合は89%(29名中26名)であり、前期(9月実施)の84%より肯定的評価の割合が増え、ほとんどの生徒が「やりたい自分に近づいている」と感じていることが分かる。進路学習では、面接練習や自己表現練習に取り組み、大崎上島学では、集大成として、文化祭で発表する演劇の一切に係る企画・実演を主体的に進め展開してきた。依然10%の生徒は否定的評価をしていることが課題である。	・ICT支援員の先生の活用方法は、大変参考になりました。特に、ブログのような形式を活用することで、保護者に、に向けた情報発信をよりタイムリーに行うことの重要性を改めて感じました。自分自信、今後は、保護者からの感想や意見も寄せたいという工夫をしていきたいと思っています。保護者が「返信したい」「参加したい」と思えるような内容や発信方法を意識し、双方のやり取りが生まれる取組を進めていきたいと思いました。	【1学年】地域の方からの肯定的評価や、毎時間「活動で身に付けた力」を確認するとともに、学期末に自分で定めた「目指す姿」に対する振り返りを行ったことが、肯定的評価の要因であると考えられる。特に、「福祉体験学習」で地域に出向いたり、「SDGsプロジェクト」で外部の方を招いて意見交流会(中間発表)を行ったりすることで、地域のニーズや生の声を聴くことができたことが良かった。次年度も、職場体験学習や商人体験を通して、地域に貢献できる生徒の育成を目指したい。
				・学校行事、地域行事等の見直しを行い、生徒と向き合う時間を確保する。 ・分掌の組織化をさらに推進し、業務の分担を図る。一斉退校日を毎月4日設定する。	・学校行事、地域行事をそれぞれ1つ以上削減する。 ・時間外勤務時間毎月45時間以下の職員数の割合	60%	53%	89%	B	後期における全体の時間外勤務時間の平均は35時間であった。冬季のため部活動時間が短時間であること、教職員の時間外勤務時間の削減に係る意識が向上したことが要因であると考えられる。一方、時間外勤務時間が45時間以上である者が固定化しているため、分掌を見直す必要がある。	・部活動については、原則、日曜日と月曜日を休業日として設定し、計画的に運用しています。 ・教職員の心身の健康保持により、授業・生徒対応の質の向上につながり、学校全体として「無理をしすぎない」協力して支え合う「風土」を作っていくべきです。	【2学年】大崎上島や特産品の魅力を東京の人に伝えようと、商品の完売を目指して取り組みを進めた。同じ目標に向けて一人一人が、班長、会計係、広報係など、自分の役割を果たすとともに、相手意識や目的意識を持って、創意工夫しながら取り組むことができた。また、地域の生産者の方へのインタビューや実際のお客様とのコミュニケーションを通して、郷土のよさを実感することが達成感や自信につながったと考える。今後は、より生徒主体で、目標の達成に向けて、計画・調整していくように単元を工夫していきたい。
【評価指数】	A:達成 100≦(A)		B:ほぼ達成 80≦(B)<100		C:もう少し 60≦(C)<80		D:できていない (D)<60		計画的な年休取得を継続して推進できるよう、デジタルツールの活用を一層充実させる。また、教職員の年休取得によって教科指導や生徒指導に支障が生じることのないよう、学年及び分掌内での連携を強化するとともに、教職員一人一人のマネジメント能力の向上を図る。			